

『心の金メダル』

朗読者 有森 裕子

09

今、私はランナーの経験を生かして、さまざまな活動をしています。その中で出会った障がい者支援の活動について、今日はお話しします。

10

長年にわたり内戦が続いたカンボジアでは、多くの命が奪われました。地雷で四万人もの人たちが手足を失い、今も一千万個の地雷が埋められているといえます。

カンボジアでは、義足を求めて病院の前に群れをなす人たちの姿がありました。必要としている人に、必要な支援が届いていなかったのです。

15

私は一人のランナーとして、一人の人間として、何かできることはないか、自分ならではのものはないかと考えました。

20

そして、平成十年（一九九八年）、私たちはNPO「ハート・オブ・ゴールド」を設立したのです。「アンコールワット国際ハーフマラソン」の運営協力や義足寄付など、カンボジアでの支援活動を始めました。走ることで、内戦の犠牲になった子どもたちの支援ができればと思ったのです。

今、「アンコールワット国際ハーフマラソン」では、世界各地から集まるランナーたちの参加費は、地雷の被害者だけでなく、

子どもたちの教育、病院などの支援に使われています。カンボジアの未来を担う子どもたちが、希望を持って生きていきけるように多くの人たちの応援が継続されています。

世界的ランナーであり、私たちの活動の仲間であるロレーン・モラーがこんなことを言っています。

「心の金メダルとは、人が他人に寄せるやさしさです。一人一人が人間として行動すれば、少しは役に立つことが出来るはず。誰もが、それを求めようとする心さえあれば「心の金メダル」を持つことができます」。

スポーツを通して、みんなが元気になれるようこれからも支援活動を続けていきたいと思えます。そして、それが障がい者スポーツの広がりにつながることを願っています。